コラージュを用いたキャリア教育プログラムに関する研究

伊藤嘉奈子（子ども心理学科・准教授）
工藤　吉猛（鎌倉女子大学中高等部・教諭）

1．研究の目的

近年、児童生徒の就労観や職業観の希薄化、フリーターやニートといった若者の問題が社会問題として挙げられている。このような中、児童生徒が「生きる力」を身につけ、様々な課題に柔軟に対処し、社会人・職業人として自立していくことができるようにするキャリア教育の取り組みが、平成11年から始まった（中央教育審議会答申、1999）。

キャリア教育とは、「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育、端的には児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」と定義され、「初等中等教育におけるキャリア教育の推進」が提言されている（文部科学省，2004）。そして、①肯定的自己理解と自己有用感の獲得、②興味・関心等に基づく勤労観、職業観の形成、③進路計画の立案と暫定的選択、④生き方や進路に関する現実的探索、を促進させることが教育目標とされている（文部科学省、2006）。

さらに、キャリア教育の中で重視される能力・態度として、①人間関係形成能力、②情報活用能力、③将来設計能力、④意思決定能力の 4 つが挙げられている（文部科学省、2006）。以上のような、教育目標、及び、4 つの能力・態度を育成するためには、従来の先行研究で実践されているような「職業調べ」や「職場見学」などといった授業を行うだけではなく、学校カウンセリングの理論と技法を背景としたグループワークなどのキャリアカウンセリングの手法を授業に導入することが有効ではないかと考える。

そこで、本研究では、キャリア教育の中核をなすと位置づけられる中学校段階でのキャリア教育の実践研究を行うことにする。対象は、本学中等部 1 年～ 3 年の生徒とし、系統的なキャリア教育が実施できるよう学習内容を検討し、より効果的なキャリア教育プログラムを開発したいと考える。具体的には、前述の教育目標、及び、キャリア教育の中で重視される能力・態度を育成するために、「職業調べ」などの授業の中にコラージュを導入し、その作成されたコラージュ作品をもとにしてグループ内で発表し合うという、集中的なグループ体験を経験しながら職業に対する意識の向上を目指すような内容を実践し、教育効果を検討することを目的とする。

2．研究計画

平成21年度　①先行研究の検討（文献、資料等）
②国内の中学校におけるキャリア教育実践の実態調査（現地取材）
③キャリア教育の実践授業の検討及び計画
④予備調査の実施（授業実践、質問紙調査、面接調査）

平成22年度　①国内の中学校・高等学校におけるキャリア教育実践の実態調査（現地取材）

②本調査の実施（各学年における授業実践、質問紙調査、面接調査）
③中学校におけるキャリア教育プログラムの検討
平成23年度　①調査結果の分析と考察
②中学校におけるキャリア教育プログラムの考察
③研究報告書の作成

3．研究経過と今後の方針

（1）平成21年度の研究経過

先行研究を検討した上で、まずは、中学3年生を対象とした授業（予備調査）を計画した。そして、現在は、この予備調査を実施している最中である。

具体的には、平成21年11月に「キャリアマトリックスを用いた職業調べとコラージュ・構成的グループエンカウンターを用いたキャリアガイダンス」という内容で授業を実践した。単元目標は、職業知識の向上と職業に対する意識の向上、および、現在の学びや進路（文理）選択と将来の職業の関連付けとした。事前学習として夏休みにキャリアマトリックスを利用し、各自自分に適した職業を検索した。また、検索結果として適職と判断された職業について、キャリアマトリックスで詳細に調べてまとめ、さらにそれらの職業に関する写真や絵の切抜きを用意してもらった。授業では、事前に準備した写真や絵の切抜きを自由に画用紙に貼るというコラージュを導入した。さらに、構成的グループエンカウンターの手法を用いて、各自に自分の進路選択や将来の職業について発表し、シェアリングを行った。平成22年1月現在は、授業の前後に実施した①進路育成態度尺度と②自由記述、による質問紙調査を分析している段階であり、職業に対する意識の向上が生じているか、進路選択に関する理解が深まったかなどの教育効果を検討する予定である。

さらに、今後は、数名の生徒を抽出して、面接調査を実施し、グループワークの効果も検討していきたいと考えている。

（2）平成22年度から平成23年度の方針

国内の中学校や高等学校におけるキャリア教育実践の実態調査（現地取材）を継続し、新たな知見を交えながら、本調査を実施する予定である。具体的には、①各学年における教育課程を念頭に置いたキャリア教育の授業実践の実施と分析・考察、②教育効果を測るための質問紙調査の実施と分析・考察、③グループワークの効果を聴くための面接調査の実施と分析・考察、④中学3年間のキャリア教育プログラムの検討・考察、を予定している。

引用・参考文献

國分康孝・國分久子 総編集　2004　構成的グループエンカウンター事典　図書文化
国立教育政策研究所生徒指導研究センター　2003　児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について
国立教育政策研究所生徒指導研究センター　2009　平成20年度 職場体験・インターンシップ実施状況等調査の結果について
文部科学省　2004　キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～

文部科学省　2005　中学校職場体験ガイド
文部科学省　2006　小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引――児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために――
中井久夫・森谷寛之　他　1993　コラージュ療法入門　創元社
坂柳恒夫・竹内登規夫　1986　進路成熟態度尺度（CMAS－4）の信頼性および妥当性の検討　愛知教育大学研究報告，35，169－182.
戸塚唯氏・深田博己・児玉真樹子　2003　中学校における進路指導の実践――平成15年度進路指導講座資料の分析――広島大学心理学研究，3，177－201.
鳥丸佐知子　2007　コミュニケーションワーク活性剤としてのコラージュの有効性について　京都文教短期大学，46，109－119.
中央教育審議会答申　1999　初等中等教育と高等教育との連携の改善について
吉田辰雄　2006　最新 生徒指導・進路指導論――ガイダンスとキャリア教育の理論と実践――図書文化
銭谷眞美　2006　中学校職場体験ガイド　文部科学省 HP